

学校教育目標	目指す子どもの姿(中・長期的目標)	中間評価	改善策・向上策
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども	1 自分で気づき 自分で考え 進んで学ぶ子ども(向上心) 2 よく働き 最後までやりぬく子ども(意志力) 3 手足を動かし 頭を働かせ 豊かに感じとれる子ども(豊かな情操) 4 一人一人のよさを認め 助け合える子ども(共生) 5 安全に気をつけ 進んで身体をきたえる子ども(健康安全)	目標を持ってやりぬこうとしている児童の姿が増加した。また、学ぶ喜びを感じ、意欲的に活動している児童の姿がある。情操面でも困っている児童などに積極的に手をさしのべられる児童が多い。半面、軽率な行動に走ってしまう事例もあるので、判断力の育成が課題である。	・さまざまな体験を振り返ったり、友との考えの交流を通して、望ましい判断力を育成する。 ・安全面では、丁寧に学級指導を行い、個別の対応も進めていく。
今年度の重点目標		成果と課題	A B C D
【なるほど！そういうことか！】学力向上の基盤をつくり、学びの質の高まりや成果を実感できる学校		真摯に授業に取り組んでいる。教材研究をさらに進める	○
【聴こう みがこう 心と言葉】周りの人や物を大切にできる心が育つ学校		6年を中心に清掃等熱心に取り組んでいる	○
【ためるぞポイント 伸ばすぞ体力】健やかでたくましい体に育つ安全で活力のある学校		校庭等で積極的に体を動かしている。	○

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題(中間報告)	評価					
					A	B	C	D		
教育活動	教育課程・学習指導	1	聴く・伝える	・子どもたちが興味関心、聴こうとする学習提示があったか。 ・話し合いの時間が確保され、友の意見に耳を傾け、自己の考えをさらに深められる機会となっていたか。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えようため、具体的にわかりやすい伝え方の指導をしたか。	友と関わりながら、積極的に活動をしていく姿がある。自分の考えを伝えようとしている姿もあるが、友の考えを自分の中で解釈し、考えを深めていく点は課題であり、授業の展開、発問等に工夫を要する。		○			指導主事、外部指導者を招いて、授業研究を通して、日常の授業改善への取組を一層進める。その際、「課題提示のあり方(具体物等の利用)」「話し合いの時間の確保」「振り返り」等、改善の視点を明確にしてと取り組んでいく
		2	基礎基本の確実な習得	・学習のねらいが明確とするため、わかったこと、できたことを振り返る時間が位置づけられたか。 ・ドリルの時間の内容が基礎的事項の定着につながったか。 ・1時間の中に、書くことを位置づけたことで、自分の考えが明確になっていたか。	諸調査の結果などから、基礎基本は身につけてきていると考えられる。振り返りの時間も比較的確保されているが、書くことについては大きな課題が残った。		○			書く力の育成にあたっては、授業の中で意図的に位置づけていく必要がある。そのためには「何を書くのか」、「何のために書くのか」等具体的な指導が必要。
		3	たくましい体づくり	・校庭や体育館で積極的に体を動かし遊ぶため、体を動かすことよさを体感させる指導をしたか。	朝や休み時間等は、体育館や校庭で意欲的に体を動かし、遊ぶ児童が多いが、調査においての数値は低い		○			ポイントカードをより有効に利用できるように改善していきたい。
		4	心を磨く清掃	・清掃の仕方の指導をし、定着しているか。 ・無言で行うことの価値を伝えたことで、無言で集中し、責任を持ってやり遂げようとしていたか。 ・自分の気づきが生かされた清掃とするため、自分の気づきを振り返る機会が保障されていたか。	1～6年まで、「無言清掃」については意識化でき、やろうとしている児童が多い。しかし、気づきの部分は指導が必要。	○			「そうじの振り返りカード」をより有効に利用できるように、利用に仕方に工夫をしていきたい。	
生徒指導	1	響くあいさつ	・子どもたちが自分から挨拶をするように教師が率先して挨拶を投げかけたか。	教師が積極的に挨拶をしたり、児童会の毎朝の活動があることから、挨拶の良さがわかりはじめた児童が多い。		○			児童会の取組をさらに活発にし、それを学活や講話で積極的に取り上げ、よりいっそう挨拶ができる雰囲気を作っていく。挨拶当番を全校で行う。	
	2	人間関係作り	・人のつながりを友達関係のあり方を見つめ直す日々の学級指導、道徳教育ができていたか。 ・日常から子どもたちのよさをクラス全体に広めようとしたか。	人間関係のトラブルはあるものの、深刻ないじめの報告はなかった。よりよい人間関係を作っていくことができない児童が多いため、克服する実践が必要。		○			日常の学活などにグループエンカウンターを積極的に取り入れ、継続的に行っていく。	
学校運営	地域との連携	1	地域素材の教材化による学習の充実	・地域に出かけ、人との関わりが授業づくりに結びつけたか。 ・総合など地域学習を学年に一度は位置づけたか。	総合的な学習では、積極的に地域に歩み出すことができた。		○			現在行われている「地域に歩み出す学習」を引継ぎ、発展させる取組を行う。
		2	キャリア教育	・地域の名人、達人を授業に招いたりして、地域のよさ、人のすばらしさを感じ取らせたか。 ・自分の生き方について考える素地ができたか。	積極的に地域の人材を活用し、子どもの学びを作り出すことが出来た。		○			現状の取組は維持しながら、さらに新たな人材を確保するよう、公民館などと連携する。
		3	地域・PTAとの連携	・地域のボランティアの方々の力を学習に生かされたか。 ・学校便り、学年便りなどを通して、保護者の学校への理解を深めようとしたか。	新たに支援ボランティアを確保し、「適材適所」でご活躍いただいた。また、学年通信は毎週必ず出すことが出来た。		○			「信州型コミュニティスクール 東小版」をさらに活発化させたい。地域の声、保護者の声に耳を傾け、内容も充実させていきたい。
	研修	1	子どもが自ら動き出す授業を目指す	・授業公開を通して、互いの授業を見合い授業改善に取り組んだか。 ・児童の発言が中心に学習が深まる授業が増えたか。	一人一公開を実施し、学び合う風潮は高まった。半面、「子ども主体」の授業の実現には課題が残る。		○			一人一公開においては、部会ごとに実施し、研究会を行う、小集団で行うなど、より実施しやすい方法を模索する。